

(別記)

みよし市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

みよし市は、ほぼ平坦地で水田農業が盛んとなっており、主力は水稻、麦、米粉・飼料用米である。麦は一部団地化され担い手による作付が進められている。

都市型農業のため兼業農家が大半を占め、後継者不足が課題となっている。また、未整備の農地があり受け手のない状況が散見されている。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米、米粉用米

飼料用米・米粉用米は、重要な転作作物としてとらえ作付面積を維持拡大していく。また、水田をフルに活用するため麦あとに作付された飼料用米・米粉用米について現行の面積を維持・拡大していくこととする。主体は飼料用米であるが、実需者の要望に応えるため米粉用米も取り組むこととする。

イ 備蓄米

主食用米と同じ機械、施設で取り組める転作作物として、平成 25 年度から取組を開始したところである。現行の面積を維持していくこととする。

(3) 小麦

団地を維持し収量の確保と高品質生産を今後も続けていくため、また収量・品質を向上させるための明渠の実施を推進するため産地交付金の産地戦略枠を活用し栽培面積を維持・拡大していくこととする。

(4) 野菜、花き・花木

販売目的での野菜・花き作付について栽培面積の拡大を推進する。

(5) 不作付地の解消

不作付地においては、農地保全に重要な役割を果たす地力増進作物、景観形成作物を作付して、解消に努めていく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	234.0	237	229
飼料用米	52.4	36	58
米粉用米	0	0	0
WCS 用稲	—	—	—
加工用米	—	—	—
備蓄米	21.7	32	32
麦類	41.8	37	40
大豆	1.1	1	1
飼料作物	3.7	5	5
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	49.1	50	50
野菜	30.4	31	31
花き・花木	1.3	1	1
地力増進作物	5.2	6	6
景観形成作物	12.2	12	12

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)
1	小麦	団地化 収量・品質向上	ア	実施面積	42ha	37ha
2	麦・大豆・ 飼料作物	二毛作	ア	実施面積	22	22ha
3	高収益作物	所得増加	ア	実施面積	32	32ha

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (6) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度 (目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり